

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2011年32週 (8月2週8/8~8/14)

2011年7月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619(企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、麻しん、腸管出血性大腸菌感染症  
病原体検出情報  
定点医療機関コメント  
手足口病、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ、感染性胃腸炎 等

全数把握感染症発生状況 ( )内は件数。

結核(25)、細菌性赤痢(1)、腸管出血性大腸菌感染症(8)、アメーバ赤痢(3)、急性脳炎(1)、破傷風(1)  
2011年7月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

## トピックス

### 手足口病(図)

32週の定点当たり報告数は6.42と26週から警報レベル(定点当たり5.0以上)が継続しています。2011年に病原体定点から寄せられた74検体のうち、13検体からCV(コクサッキーウイルス)-A6、3検体からCV-A16、2検体からEV(エンテロウイルス)-71型、1検体からCV-B4が検出されています(2ページ参照)。

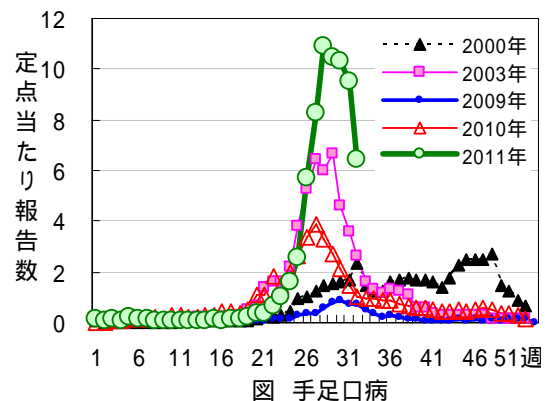
#### 【参考ページ】

手足口病警報を発令します!!(7月7日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000016940.html>

感染症発生動向調査週報(IDWR)2011年第28週「手足口病」

<http://idsc.nih.gov.jp/idwr/douko/2011d/28douko.html#chumoku1>



### ヘルパンギーナ

32週の定点当たり報告数は1.75、31週528人 32週318人です。

### 伝染性紅斑

32週の定点当たり報告数は0.83、31週185人 32週151人です。2011年愛知県においても、一部の麻しん疑い患者検体からヒトパルボウイルス B19(伝染性紅斑の病因ウイルス)が検出されています(2ページ参照)。

【参考ページ】麻しんと診断された伝染性紅斑の家族例(病原微生物検出情報/国立感染症研究所感染症情報センター) <http://idsc.nih.gov.jp/iasr/31/367/pr3674.html>

### 麻しん

2011年は8月17日現在27件報告されています。年齢階層別内訳は、0~19歳15件、20歳以上12件です。

麻しんの診断時には、発生届と併せて患者検体の提出をお願いいたします。

平成23年度の麻しん・風しんの定期予防接種対象は、1歳児(1期)、平成17年4月2日~18年4月1日生まれの人(2期)、平成10年4月2日~11年4月1日生まれの人(3期)及び平成5年4月2日~平成6年4月1日生まれの人(4期)です。対象のかたは夏季休業等の機会に予防接種(MRワクチン)を受けましょう。

【参考ページ】麻しん・風しんの予防接種は2回受けましょう [http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi\\_4.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_4.html)

### 腸管出血性大腸菌感染症(表)

愛知県の2011年1~33週報告数(診断週集計)は8月17日現在74件、うち溶血性尿毒症症候群発症例は2件です。O血清型別内訳は、O157が66件、O26が3件、O121が1件、O145が1件、不明が3件です。2010年の同時期(1~33週)報告数は167件、報告総数は237件でした。

#### 【参考ページ】

病原大腸菌 下痢を起こす5種類のメンバー

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html>

表 腸管出血性大腸菌感染症

O血清型別報告数及びHUS\*発症数(愛知県・8月17日現在)

O血清型	2009年	2010年	2011年
O157	177	190	66
O26	12	33	3
O111	2	3	0
O121	0	0	1
O145	3	2	1
その他、不明	15	11	3
患者報告数総計	206	237	74
うちHUS発症者数	4	10	2

\*溶血性尿毒症症候群

病原体検出情報 - 平成 23 年疾患別ウイルス検出速報 -

8 月 15 日現在

	感受性胃腸炎	手足口病	ヘルペス	咽頭腺熱	流行性角膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	*インフルエンザ	**麻疹
患者数	152	74	24	11	29	22	10	358	8(41)
PV-1	1								
CV-A4			1						
CV-A6		13	4						
CV-A16		3							
EV-71		2							
CV-B1			1			2	1		
CV-B2	1								
CV-B4		1							
E-11	3					2	1	1	
FluAH1pdm								139	
FluAH3								100	
FluB								75	
MeV									1(2)
MuV						1			
RUBV									(1)
Rota A G1	27								
Rota A G2	1								
Rota A G3	32								
NV-G	1								
NV-G	39								
SV	5								
AstV	9								
Ad-2	3			1					
Ad-3	4			4	3				
Ad-5	1								
Ad-41	1								
Ad-54					2				
B19V									(12)
検査中	14	43	16	6	6	9	1		2(3)
陰性	31	12	2		18	8	7	43	5(23)

\*インフルエンザは 2010/2011 シーズンの検査結果。

\*\*麻疹の( )内は病原体定点医療機関以外からの患者数(別掲)。

略：ウイルス名(他の略名) Ad：アデノウイルス、AstV：アストロウイルス、B19V：ヒトパルボウイルス B19、CV：コクサッキーウイルス(Cox.)、E：エコーウイルス、EV-71：エンテロウイルス 71 型、FluAH1pdm：新型インフルエンザウイルス、FluAH3：A 香港型インフルエンザウイルス、FluB：B 型インフルエンザウイルス、MeV：麻疹ウイルス、MuV：ムンプスウイルス、NV：ノロウイルス、PV：ポリオウイルス、Rota A：A 群ロタウイルス、RUBV：風疹ウイルス、SV：サボウイルス

関連ページ 1) 「疾患別ウイルス検出情報」<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

2) 「2010/11 シーズンインフルエンザウイルス分離・検出状況」

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri10\\_11.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri10_11.html)

## 定点医療機関コメント(名古屋市除く)

### 尾張西部地区

8歳女 マイコプラズマ肺炎  
14歳女 カンピロバクター  
4歳男 エルシニア  
【一宮市 あさのこどもクリニック】  
手足口病、ヘルパンギーナあり  
3歳女 水痘後手足口病となる  
マイコプラズマ気管支炎 14歳男  
【一宮市 後藤小児科医院】  
マイコプラズマ感染症 4人  
【一宮市 ささい小児科】  
手足口病依然多いです  
【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】

コクサッキーA6の方がA16より多い様です。  
【犬山市 武内医院】  
手足口病多発  
ヘルパンギーナ様と従来の手足口病両方あり  
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】  
26歳女 カンピロバクター、病原大腸菌O15検出  
6歳女 EBウイルス  
手足口病、ヘルパンギーナ多発しております。  
【清須市 丹羽医院】

### 尾張東部地区

手足口病流行続けております(患者数も多く、成人例もみられます)。  
ヘルパンギーナも流行続けてますが、患者数はそれ程でもありません。  
その他、溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、突発疹等。  
例年に比して(この時期にしては)受診者数が多いように思われます。  
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】  
手足口病、ヘルパンギーナも少なくなっている印象です。  
【豊明市 こども元気クリニック】  
手足口病 続いています。  
【春日井市 春日井市民病院】

手足口病、ヘルパンギーナ 続発中  
RSV、アデノ感染症 増加  
【春日井市 朝宮こどもクリニック】  
手足口病、やや減少傾向です。  
マイコプラズマ、およびRSウイルス感染も見られます。  
感染性胃腸炎ではサルモネラO4、カンピロバクターが見られました。  
【小牧市 志水こどもクリニック】  
2歳女 マイコプラズマ 320倍  
【半田市 医療法人林医院】  
7歳男 病原大腸菌O25(+ )VT(- )  
水痘が増えてきました。軽症が多く、発疹も典型的ではないため診断が難しいです。  
【大府市 まえはらこどもクリニック】

### 西三河地区

マイコプラズマ感染症 10名  
【豊田市 すくすくこどもクリニック】  
サルモネラO4群 5歳男  
カンピロバクター(+ ) 9歳女  
手足口病が多発中  
【岡崎市 花田こどもクリニック】  
6歳女 サルモネラO4  
10か月男 病原性大腸菌O1(+ )VT(- )  
【岡崎市 にいのみ小児科】

14歳女 病原性大腸菌O1  
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】  
8歳男 病原性大腸菌O18  
手足口病、ヘルパンギーナ散見されます。  
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】  
手足口病流行  
【碧南市 永井小児クリニック】  
11歳女 サルモネラ腸炎O8(+ )  
【西尾市 山岸クリニック】

### 東三河地区

10歳女 カンピロバクター腸炎  
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】  
手足口病に2回罹患する児が数名あり  
【田原市 かわせ小児科】  
マイコプラズマ多い(小学校中学校あたりが目立つ)  
【蒲郡市 蒲郡市民病院】

[7月報コメント]  
トリコモナス膣炎 53歳1名  
【豊川市 豊川市民病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2011年8月17日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun110401.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2011年32週報告数			2011年累計(1～32週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	9	2	3	478	110	104
豊田市				52	17	12
豊橋市	4	2	2	55	11	21
岡崎市	3			56	10	20
一宮	2		1	97	28	27
瀬戸	2		2	99	24	24
半田				35	8	17
春日井				63	21	15
豊川	2		1	24	6	10
津島				41	7	14
西尾	1			33	7	12
江南	1	1		39	11	12
新城	1	1		7	3	
知多				82	17	39
師勝				29	10	4
衣浦東部				73	22	17
合計	25	6	9	1,263	312	348

細菌性赤痢（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	江南	61歳	男	7/30	8/6	8/8	インドネシア

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	31歳	女	-/-	8/8	8/10	O157、VT1(+)VT2(+) 無症状病原体保有者
2	名古屋市	4歳	男	-/-	8/8	8/10	O157、VT1(+)VT2(+) 無症状病原体保有者
3	名古屋市	32歳	男	-/-	8/8	8/10	O157、VT1(+)VT2(+) 無症状病原体保有者
4	名古屋市	33歳	女	-/-	8/5	8/10	O157、VT1(+)VT2(+)
5	豊田市	57歳	女	7/31	8/1	8/8	O157、VT2(+)
6	豊田市	80歳	女	8/4	8/7	8/10	O157、VT1(+)
7	津島	50歳	男	8/3	8/5	8/10	O157、VT1(+)VT2(+)
8	西尾	8歳	男	7/30	8/2	8/10	O157、VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	55歳	男	腸管アメーバ症	不明	タイ
2	名古屋市	41歳	男	腸管外アメーバ症	不明	国内
3	衣浦東部	47歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	3歳	男	病原体(アデノウイルス2型)	国内

破傷風（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	瀬戸	17歳	男	国内

## 2011年7月報

(2011年8月10日現在、診断週に基づく集計)

7月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [ ( )は無症状病原体保有者再掲。]

2010～2011年に報告のあった 疾病名及び病型 ( )内は全数把握対象疾病数		2011年7月			2011年 総計 <愛知県全体>	2010年 総計 <愛知県全体>	
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体			
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0	
二類 (5)	結核	78 (20)	61 (8)	139 (28)	1,185 (320)	2,037 (351)	
三類 (5)	細菌性赤痢	0 (0)	1 (0)	1 (0)	6 (0)	11 (0)	
	腸管出血性大腸菌感染症	14 (2)	1 (0)	15 (2)	54 (14)	237 (56)	
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	
	バラチフス	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	
四類 (42)	E型肝炎	0	0	0	2	3	
	A型肝炎	0	0	0	1	13	
	オウム病	0	0	0	0	4	
	チクングニア熱	0	0	0	1	-	
	つつが虫病	0	0	0	0	2	
	デング熱	0	0	0	5	21	
	ブルセラ症	0	0	0	0	1	
	ポツリヌス症	0	0	0	1	0	
	マラリア	0	0	0	5	1	
	レジオネラ症	6	2	8	24	43	
五類 (14)	アメーバ赤痢	2	0	2	18	53	
	ウイルス性肝炎	1	0	1	7	17	
	内訳	B型	0	0	0	4	16
		C型	0	0	0	0	1
		その他	1	0	1	3	0
	急性脳炎	1	0	1	9	8	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	8	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	0	2	10	11	
	後天性免疫不全症候群	0	4	4	62	138	
	内訳	無症候性キャリア	0	4	4	32	73
		AIDS	0	0	0	29	56
		その他	0	0	0	1	9
	ジアルジア症	0	0	0	3	1	
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0	1	
	梅毒	0	2	2	30	53	
	内訳	無症候	0	0	0	10	23
		早期顕症	0	2	2	17	27
		晩期顕症	0	0	0	3	3
	破傷風	0	0	0	2	3	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	2	
風しん	0	2	2	9	3		
麻しん	4	2	6	27	32		
総 計		109	75	184	1,464	2,704	

\*O157; 14件、O血清型不明; 1件。HUS発症; 1件。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2011年7月			2011年 総計	2010年 総計
		愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	73	61	134	888	1,680
	性器ヘルペスウイルス感染症	36	20	56	367	609
	尖圭コンジローマ	9	10	19	179	355
	淋菌感染症	25	40	65	395	822
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	80	26	106	797	1,239
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	2	7	98	238
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	1	1	4
	薬剤耐性アシネトバクター感染症*	0	3	3	5	-

\*2011年2月からの報告対象疾病

感染症の類型及び定義(感染症法)

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (42疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (42疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。





